

令和6年度 道徳教育地域支援事業における事業内容

学校名[寒河江市立陵東中学校]

【研究の要約】

本校は「自ら考え、正しく判断し、行動できる人間性豊かな生徒の育成」を研究テーマとして掲げ、コロナ禍以降の不登校・不登校傾向の生徒数の増加、本校生徒の自己肯定感の低さ等の学校課題の克服を目指して教育活動を展開しているところである。本事業を活用した道徳研究大会への派遣や各種研修で得られた知見をもとに「特別の教科 道徳」を要として、特別活動や総合的な学習の時間、さらにはコミュニティ・スクールを活用した地域学校協働活動等、学校の教育活動全体を通して道徳教育の充実を図り、魅力ある授業づくり・学校づくりに取り組んだ。

1. 事業の内容(具体的実践事例)

(1) 地域の実態や課題に応じた特色ある道徳教育の取組

第58回全日本中学校道徳教育研究大会神奈川大会へ教員2名を派遣し、優れた実践事例を教職員で共有することで、教職員の指導力の向上を図ることができた。また、校内授業研究会や市教育委員会委嘱公開研究授業において道徳授業を公開した。指導案作成に際して、指導主事からの指導助言をもとに検討を重ね、授業づくりを行った。

(2) 道徳教育に係る外部講師派遣

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官堀田竜次氏を講師として、「道徳科の特性を生かした指導」をテーマに研修を開催した。講義及び演習を通して、道徳授業づくりの教材研究の視点等について指導助言を頂いた。また、東北芸術工科大学教育課程非常勤講師佐藤幸司氏を講師として『特別の教科 道徳』の授業づくりと評価」をテーマに研修を開催し、模擬授業を通してより実践的な発問づくりの視点などについて指導助言を頂いた。

(3) 家庭・地域との連携による道徳教育の取組

学校運営協議会の協力体制の下、町会長と語る会や寒河江まつりでの「陵東神輿会」、さらには総合的な学習の時間における「地域企業による課題探究プロジェクト」等を通して、地域貢献の機会を積極的に設けた。地域企業・地域住民との触れ合いの中で自己効力感を高めると同時に、道徳的な実践意欲と態度を育むことができた。

2. 研究成果(○)と課題(●)

○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙のうち、道徳に関連する項目について4月と1月の数値を比較したところ、全ての調査項目において改善が図られた結果となった。特に、自己効力感や規範意識の涵養、さらには、道徳授業における道徳的価値の理解を自己とのかかわりの中で深める指導の充実、多面的・多角的な見方を発展させるための意見交流の充実が図られていることが調査結果から伺えた。

【資料】道徳の授業に関する調査結果 (R6 全国学力・学習状況等調査における生徒質問紙調査より道徳に関わる質問項目を抽出)

	4月	1月	変化
1. 自分には良いところがあると思いますか。	86.2	92.5	+6.3
2. 将来の夢や目標を持っていますか。	70.3	83.2	+12.9
3. 人が困っている時は、進んで助けていますか。	88.1	95.3	+7.2
4. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	94.7	98.1	+3.4
5. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	94.4	98.1	+3.7
6. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	79.6	95.3	+15.7
7. 地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか。	81.9	87.9	+6.0
8. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	92.4	96.3	+3.9

※数字は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答の割合

○本事業を活用した研究大会への派遣や各種研修で得られた授業づくりに関する知見に基づき、学校全体として「考え、議論する道徳」を目指した授業改善及び指導力の向上が図られた。また、「特別の教科 道徳」を要として、各教科の学習や特別活動、総合的な学習の時間等、学校の教育活動全体で生徒らの自己肯定感・自己効力感の涵養を図る道徳教育を進めることができた。

○本校の学校運営協議会の協力の下、町会長と語る会や、寒河江まつりでの「陵東神輿会」、総合的な学習の時間における「地域企業による課題探究プロジェクト」等、地域企業・地域住民との触れ合いの中で探究的な学習や豊かな体験活動の場を持つことができた。これらの家庭・地域と連携した取り組みは、道徳教育で培った道徳的な判断力や実践意欲と態度の育成を図るうえで大変意義のある活動と捉えている。今後も「地域に開かれた教育課程」を通じて、道徳教育の充実を図っていききたい。

●本校では学年ローテーションで全教員が道徳授業を行う等、全校体制で道徳科に力を入れているところであるが、「考え、議論する道徳」を目指した授業づくりについては、まだまだ研究の余地がある。特に、道徳授業づくりの視点についての理解と適切な評価のあり方について、さらに研究を重ねていきたい。

<参考資料>

【資料1】寒河江市教育委員会委嘱公開授業研究会における道徳授業の公開



「考え、議論する道徳」を目指して、以下のような工夫を織り交ぜた授業実践が展開された。

- ・視覚教材による主題に対する生徒の興味や関心を高める導入の工夫
- ・他者の考えと比べ、自己の考えを深める展開の工夫
- ・「心のものさし」を活用した心情の可視化により、生徒相互の話し合いが活発に行われるような工夫
- ・主題を自分との関わりで捉え、自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望が持てるような終末の工夫 等

- ・生徒の実態をとらえて環境を整えた丁寧で温かい授業だったと感じました。
- ・友達の考えを聞くだけでなく、質問し合い、根拠をもとに話そうとしているのが分かりました。
- ・級友、先生に認められていることによる安心感が伺えました。学校が居心地の良い場所になっていることが、自信をもって授業に臨む態度に現れていました。
(授業参観者の感想より)

【資料2】外部講師による道徳教育に係る研修

文部科学省教科調査官堀田竜次氏を講師として「道徳科の特質を生かした指導」をテーマとした研修、及び、東北芸術工科大学佐藤幸司氏を講師として「『特別の教科 道徳』の授業づくりと評価」をテーマとした研修を開催した。

講義や模擬授業等の演習を通して、道徳授業づくりを行う上での教材研究の視点や、発問づくりの視点について指導助言をいただいた。

- ・価値理解、人間理解、他者理解の発問を組み合わせること、自己を見つめる時間、多面的・多角的に考える時間、生き方を考える時間を取ることを実践していきます。明確な指導の意図をもって、生徒の実態と照らし合わせれば、同じ教材でも多面的な展開がありえることを再確認しました。
(受講者の感想より)



令和6年度 寒河江市立陳豪中学校 道徳研修会

道徳科の特質を生かした指導

令和6年7月29日(月)

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官
堀田 竜次



【資料3】道徳の授業に関する調査結果 (R6 全国学力・学習状況等調査における生徒質問紙調査より道徳に関わる質問項目を抽出)

	4月	1月	変化
1. 自分には良いところがあると思いますか。	86.2	92.5	+6.3
2. 将来の夢や目標を持っていますか。	70.3	83.2	+12.9
3. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	94.7	98.1	+3.4
4. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	79.6	95.3	+15.7
5. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	92.4	96.3	+3.9

※数字は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答の割合

本事業の活用により、本校生徒の自己効力感や規範意識の涵養、さらには、道徳授業における道徳的価値の理解を自己とのかかわりの中で深める指導の充実、多面的・多角的な見方を発展させるための意見交流の充実が図られたことが調査結果から伺える。